

NISSHA

Nissha Today

第100期 中間報告書

2018年1月1日—2018年6月30日

EMPOWERING
YOUR VISION



NISSHA株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ	01
トピックス	04
特集 メディカルテクノロジー事業	05
業績ハイライト	07
会社概要/株式の状況	09
コミュニケーション	10

社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜りお礼申し上げます。
2018年12月期第2四半期(累計)の実績と今後の見通しについて、
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。

第6次中期経営計画のビジョン
「バランス経営の完成」に向けて
全社一丸となって取り組みます。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者



—まず2018年12月期第2四半期(累計)の実績について説明してください。

産業資材事業やメディカルテクノロジー事業の製品需要は概ね想定通りに推移したものの、主力のデバイス事業ではスマートフォン向けを中心に製品需要は当初想定を大きく下回りました。

これらの結果、第2四半期(累計)の業績は、売上高は725億42百万円(前年同期比2.1%増)、利益面では営業損失は44億76百万円(前年同期は24億80百万円の営業損失)となりました。

※第2四半期(累計)の業績は前年同一期間である2017年1月から2017年6月の業績と比較しています。

—2018年12月期通期(1~12月)の見通しはいかがですか。

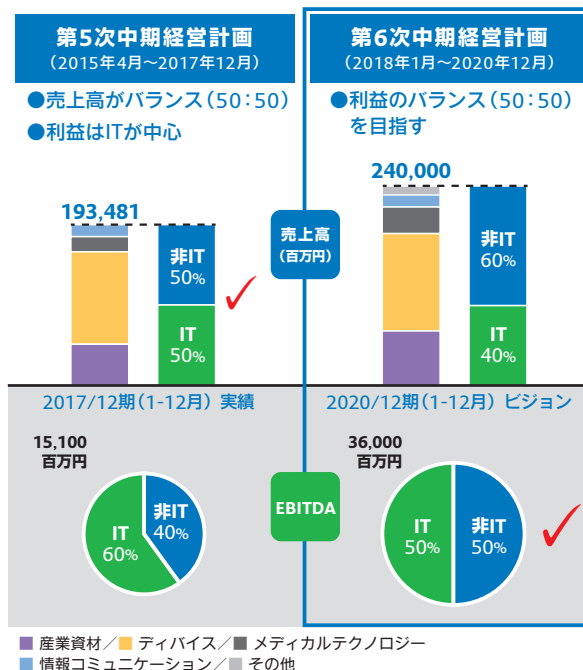
2018年下期は、上期の状況からは一転し、主力のデバイス事業において製品需要が拡大期を迎え、全社業績の回復に貢献することが期待されます。また産業資材事業、メディカルテクノロジー事業の製品需要は概ね堅調に推移する見通しです。2018年12月期の業績につきましては、5月の公表通り、売上高は2,170億円、営業利益は102億円を見込んでいます。

2018年度の業績見通しからも明らかのように、上期と下期の業績の差が大きくなっています。このことはデバイス事業が主にIT市場向けに事業展開しており、当社がこのIT市場

の動向に大きな影響を受けていることに関係しています。こうした状況を是正すべく、当社では2018年1月から運用を開始した第6次中期経営計画(2018年1月～2020年12月)において「バランス経営の完成」を目指しており、IT市場に加えて、グローバルレベルで安定成長が見込まれる自動車や医療機器、高機能パッケージ資材などの市場を拡大することによって経営や業績の安定性を向上させる考えです。

—改めて第6次中期経営計画について教えてください。

第6次中期経営計画は2018年1月から2020年12月までの3年間を対象としています。その骨子は先ほどお伝えしたように、現在主力のIT市場に加えて、グローバルレベルで安定成長が見込まれる自動車や医療機器、高機能パッケージ資材の3つの市場を拡大することによって、経営や業績の安定性を向上させることです。自動車、医療機器、高機能パッケージ資材は先の第5次中期経営計画(2015年4月～2017年12月)から注目している市場であり、この間、当社は企業買収などを通じて、お客さまへの販売網や製品ラインアップ、生産能力などの事業基盤を構築してきました。第6次中期経営計画ではこの事業基盤を最大限に活用したグローバルベースの成長戦略を展開することにより、事業の成長スピードを速めます。



第6次中期経営計画の成長投資は3年間でM&Aに315億円、設備投資に285億円の600億円規模を計画しています。M&Aの予算は、IT 以外の3つの市場(自動車、医療機器、高機能パッケージ資材)を中心に投下する予定です。

2018年12月期第2四半期(累計)業績のポイント

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する 四半期純利益	中間配当金
725億円 前年同期比2.1%増	▲44億円 前年同期は▲24億円 円高に加え、デバイス事業の 製品需要が想定を下回る	▲67億円 前年同期は▲46億円 円高に伴う為替差損が影響	1株当たり15円

※第2四半期(累計)の業績は前年同一期間である2017年1月から2017年6月の業績を比較しています。

— 第6次中期経営計画の進捗を教えてください。

第6次中期経営計画がスタートして半年が経ちましたが、医療機器市場向けには既に具体的な進展がありました。メディカルテクノロジー事業は、2018年5月には除細動電極*を手掛ける医療機器メーカーHeart Sync, Inc.(ハートシンク)を買収、6月には医療機器の受託生産を行うSequel Special Products, LLC(シークエル・スペシャル・プロダクツ)およびその関連会社で医療機器の製品開発や製品設計を手掛けるRSS Design, LLC(アールエスエス・デザイン)を買収し、将来の成長を見据え、これまでの事業基盤に更なる強みを加えました。

第6次中期経営計画ではこうした具体的な取り組みを積み重ねる戦略の実行力を重視していますので、今後もご期待いただければと思います。

*除細動電極：正常な心拍の回復のため、除細動器から患者に制御された電気ショックを伝達する導体。電気ショックを供給するかを判断するための心電用電極としての機能も有する。

— 最後に配当金の考え方について教えてください。

2018年12月期の中間配当金は15円とさせていただきます。

当社では、利益配分については安定配当の継続を基本方針に、当期および今後の業績、配当性向、財務面での健全性などを総合的に勘案して配分することとしています。

2018年12月期の期末配当については、15円(年間配当金1株当たり30円)とさせていただきます。

なお内部留保金については、現時点では中・長期的観点から企業価値拡大を図るための成長分野への投資・研究開発を中心に有効活用することを基本方針としています。

— 株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

第6次中期経営計画の初年度の第2四半期を終え、足元の業績は力強さに欠けるものの、当社はバランス経営の完成に向けた活動を緩めることなく推し進めております。経営者・社員一同全力で臨みますので、引き続きみなさまのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2018年12月通期業績予想

	2017年12月期 9カ月決算(実績)	2018年12月期 (2018年5月10日発表)
売上高	159,518	217,000
EBITDA	14,509	20,000
営業利益	6,278	10,200
経常利益	7,578	9,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,734	7,000
1株当たり当期純利益(円)	139.72	138.92

(百万円)

事業別売上高	
産業資材	50,300
デバイス	131,800
メディカルテクノロジー	20,000
情報コミュニケーション	14,500
その他	400

トピックス

NISSHAイノベーションセンターKYOTOが開業



NISSHAイノベーションセンターKYOTO

当社は、2018年4月13日、「NISSHAイノベーションセンターKYOTO」の開業式を京都本社構内において執り行いました。当社代表取締役社長 兼 最高経営責任者である鈴木順也の開会の辞につづき、来賓として参加いただいた山下晃正京都府副知事および門川大作京都市長から祝辞をいただきました。

NISSHAイノベーションセンター KYOTOは、地上5階建て、延床面積9,556m²におよぶ都市型の研究開発拠点です。本社構内に点在していた多様な能力を持つ技術者など約400人が一堂に集結するとともに、研究室や実験設備が集約されます。事業の垣根を越えた技術の融合や技術開発の活性化・効率化を図り、グローバル市場に向けた新事業・新製品開発を一層加速させ、新しいお客さま価値の創出を目指します。

NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」に協賛

当社は、「芸術・文化の支援・振興」を社会貢献基本方針のひとつに掲げています。この一環として、明治維新150年 NHK大河ドラマ特別展「西郷どん」に協賛しています。東京展は、2018年5月から7月まで東京藝術大学大学美術館で開催されました。巡回展となる大阪展は9月17日まで大阪歴史博物館(大阪市中央区)で開催、鹿児島展は9月27日から11月18日まで鹿児島県歴史資料センター黎明館で開催予定です。

展覧会では、NHK大河ドラマ「西郷どん」と連動し、西郷隆盛ゆかりの品や同時代の歴史資料などを紹介、西郷隆盛の人間像と彼が生きた時代を浮き彫りにしています。



特別展「西郷どん」東京展ポスター

ヘルシオに当社フィルムタッチセンサーが採用

デバイス事業のフィルムタッチセンサーがシャープ株式会社の「ウォーターオープンヘルシオ(2018年度モデルAX-AW500)」の操作パネルに採用されました。家電製品に当社の静電容量方式を用いたフィルムタッチセンサーが採用されるのは初めてのことです。



シャープ株式会社 ウォーターオープンヘルシオ(2018年度モデル AX-AW500)

アバロンのオーディオパネルに当社製品が採用

産業資材事業が手掛ける加飾成形品が2018年春に発売されたトヨタ自動車株式会社「アバロン」に採用されました。お客さまからは質感の高い大型オーディオパネルとの評価をいただき、同社のカムリに続き、アバロンでも採用となりました。



アバロンに採用された当社の加飾成形品

メディカルテクノロジー事業の発足から2年、



印刷技術から医療機器市場へ進出

2016年9月、当社はアメリカの医療機器メーカーGraphic Controlsグループ(グラフィック・コントロールズ)を買収・子会社化したことを契機に、当社第4の事業となるメディカルテクノロジー事業を発足させ、医療機器分野への本格的な事業参入を果たしました。グラフィック・コントロールズは社名から分かる通り印刷に起源をもつ企業ですが、当社が一般印刷からラミネーションやパターンニング、成形、コーティングといったコア技術を拡充させながら産業資材やデバイスといった事業を生み出してきたのと同様に、ラミネーションやパターンニング、成形など当社と共通する技術を拡充させながら事業を多角化する過程で医療機器向けの事業を創出しました。

メディカルテクノロジー事業は、このグラフィック・コントロールズを事業の中核に据え、心疾患用途の手術用器具や医療用電極などを主力製品に、グローバルベースで大手医療機器メーカー向けの受託生産事業(製品設計～開発～生産の一連の工程を手がける事業)を展開するとともに、病院向けには自社ブランド品を生産・販売しています。

成長スピードは加速

近年、私たちのお客さまである大手医療機器メーカーは研究開発やマーケティング活動に経営資源を集中させ、製品の生産を外部へと委託する傾向を強めています。メディカルテクノロジー事業では従来のローコストオペレーションなどの生産能力に開発や設計などの機能を加えることにより、受託生産分野での事業を拡大させる方針です。2018年6月には、医療機器の受託生産を行う Sequel Special Products, LLC(シーケル・スペシャル・プロダクツ)および、その関連会社で医療機器の製品開発や製品設計を手掛けるRSS Design, LLC(アールエスエス・デザイン)を買収・子会社化し、受託生産における販路や生産能力に加え、新たに製品開発や製品設計の機能を獲得しました。これにより同事業は、開発から設計、生産、販売に至る一連の能力を拡充し、付加価値の向上による業績の拡大を図ります。

一方、事業を成長させるうえで製品のラインアップ拡充は欠かせません。医療用電極は当社の主力製品のひとつですが、当社は2018年5月にアメリカの医療機器メーカー、Heart Sync, Inc.(ハート・シンク)を買収し、この製品ラインに新たに除細動電極を

その成長スピードはますます加速しています。



※写真はイメージです

追加しました。除細動電極はAED(自動体外式除細動器)などに使用される医療用電極のひとつであり、今後高い成長が見込まれています。

メディカルテクノロジー事業はこのようにM&Aを活用しながらグローバル視点で成長戦略を実践していますが、NISSHAとのシナジー(相乗効果)という面においても具体的な成果が生まれ始めています。2016年10月には日本における事業機会を調査することを目的に、神戸医療産業都市にリサーチオフィスを開設しました。また2017年4月には、NISSHA株式会社(当時は日本写真印刷株式会社)として第二種医療機器製造販売業の許可を取得し、日本国内において医療機器に関する事業を展開するために必要な品質管理と安全管理の体制を整え、2018年2月には自社ブランド、Vermed(バーメッド)の単回使用心電用電極の国内販売を開始しました。

メディカルテクノロジー事業は今後も、上記のような成長戦略を通じて当社第4の事業としての存在感を高めていく予定です。今後の動向に是非ご注目ください。



ハート・シンクは、アメリカのミシガン州でAED(自動体外式除細動器)などに使用される除細動電極の設計・販売を手掛けています。使い勝手の良さを追求するなど医療現場のニーズを的確に捉えた製品開発や製品設計に特徴を有しています。

Sequel Medical

シークエル・スペシャル・プロダクツは、アメリカのコネチカット州で、大手医療機器メーカーからカテーテルなどの低侵襲医療[®]向けや整形外科向けの手術用器具の受託生産を請け負っています。

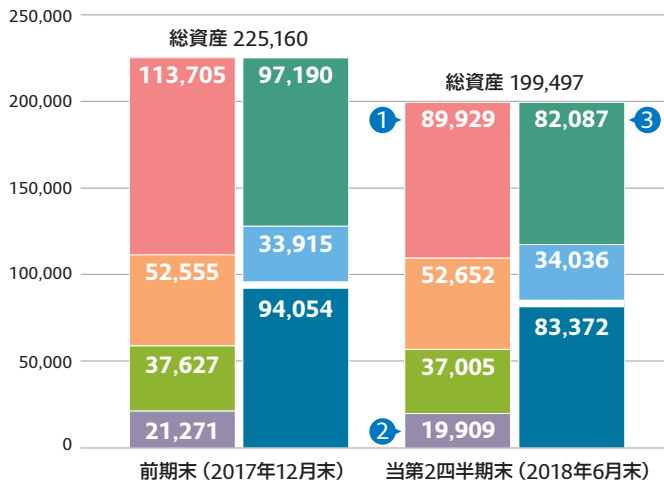
※低侵襲医療: 検査・治療においてできる限り患者の身体への影響を減らす医療で、今後の成長が期待できる医療領域です。

2018年12月期第2四半期(累計) 業績ハイライト

連結貸借対照表

■ 流動資産
 ■ 有形固定資産
 ■ 無形固定資産
 ■ 投資その他の資産
■ 流動負債
 ■ 固定負債
 ■ 純資産

単位：百万円



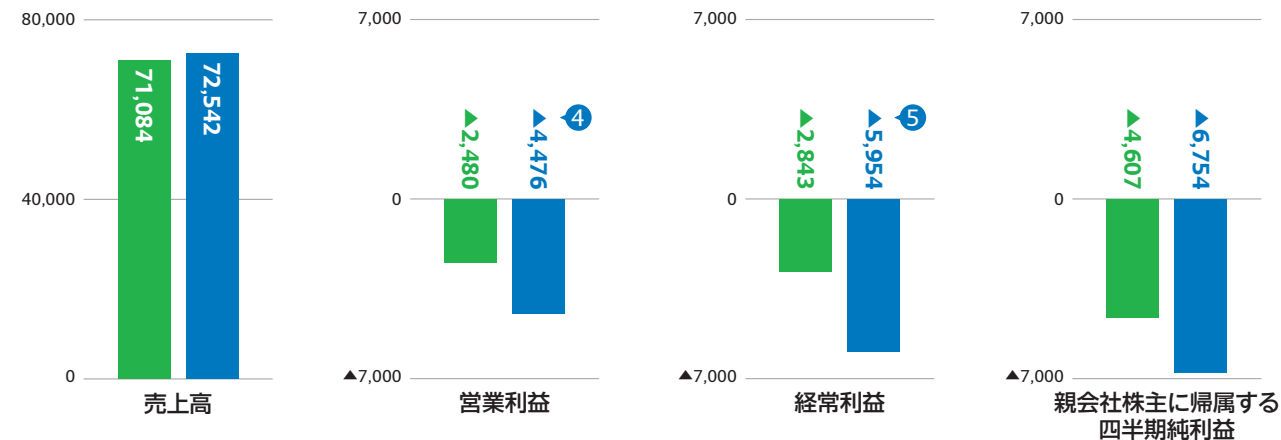
POINT

- ① 現預金や受取手形および売掛金の減少などにより、流動資産が減少しました。
- ② 投資有価証券の減少などにより、投資その他の資産が減少しました。
- ③ 短期借入金が増加した一方、支払手形および買掛金が減少したことなどにより、流動負債が減少しました。
- ④ 主力のデバイス事業における製品需要の低迷により生産部門の稼働率が大きく低下したことなどにより、44億76百万円の営業損失となりました。
- ⑤ 円高に伴う為替差損の計上などにより、59億54百万円の経常損失となりました。

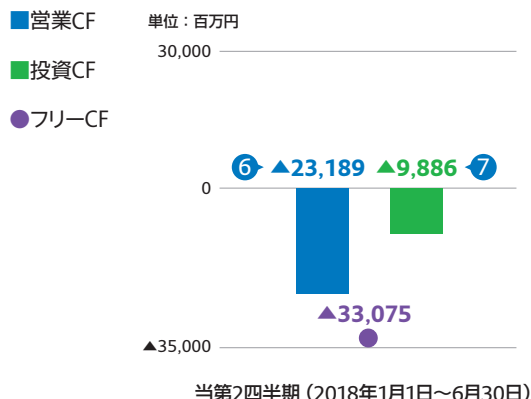
連結損益計算書

■ 前年同一期間: 2017年1月1日~6月30日
■ 当第2四半期: 2018年1月1日~6月30日

単位：百万円



連結キャッシュ・フロー計算書



POINT

- 6 売上債権が減少した一方で、たな卸資産の増加、仕入債務の減少などにより、営業活動によるキャッシュ・フローは231億89百万円の支出となりました。
- 7 固定資産の取得や企業買収などにより、投資活動によるキャッシュ・フローは98億86百万円の支出となりました。

事業別の業績

※第2四半期(累計)の業績は前年同一期間である2017年1月から2017年6月までの業績と比較しています。

産業資材

売上高 **23,338**百万円(前年同期比**2.8%**減)
 EBITDA **2,253**百万円(前年同期比**7.9%**減)
 営業利益 **402**百万円(前年同期比**20.7%**減)

主力の自動車向け加飾分野を中心として製品需要は概ね想定通りに推移しましたが、一部の海外工場で生産歩留まりが当初想定を下回るなど、品質コストの削減に課題が残りました。

デバイス

売上高 **32,012**百万円(前年同期比**1.4%**増)
 EBITDA **▲1,598**百万円(前年同期は**1,488**百万円)
 営業利益 **▲3,086**百万円(前年同期は**▲819**百万円)

主力のスマートフォン向けの製品需要が急減し、生産部門の稼働率が大きく低下、事業収益を圧迫しました。

メディカルテクノロジー

売上高 **9,987**百万円(前年同期比**16.5%**増)
 EBITDA **806**百万円(前年同期比**359.8%**増)
 営業利益 **▲24**百万円(前年同期は**▲619**百万円)

主力の受託生産分野を中心に製品需要は堅調に推移しました。一方、製品設計や開発能力など事業の付加価値を高める目的で実施した企業買収やその経営統合などに一時的な費用が発生しました。

情報コミュニケーション

売上高 **6,994**百万円(前年同期比**3.0%**増)
 EBITDA **▲121**百万円(前年同期は**▲99**百万円)
 営業利益 **▲245**百万円(前年同期は**▲201**百万円)

主力の商業印刷分野で情報メディアの多様化における印刷物の減少などの影響があり、事業環境は厳しいものとなりました。

会社概要

商号	NISSHA株式会社	
創業	1929年10月6日	
設立	1946年12月28日	
資本金	121億1,979万円(2018年6月末現在)	
社員数	単体815人、連結5,632人(2018年6月末現在)	
拠点数(子会社含む)	国内16カ所 海外45カ所(持分法適用会社含まず)	

役員の状況

(2018年6月末現在)

取締役	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也
	取締役	橋本 孝夫
	取締役	西原 勇人
	取締役	井ノ上 大輔
	取締役	渡邊 亘
	取締役(社外)	久保田 民雄
	取締役(社外)	野原 佐和子
	取締役(社外)	大杉 和人
	取締役(社外)	安藤 誠
	監査役	常勤監査役
常勤監査役		野中 康朗
監査役(社外)		桃尾 重明
監査役(社外)		中尾 雄介
執行役員	専務執行役員 兼 最高技術責任者	橋本 孝夫
	専務執行役員 兼 最高財務責任者	西原 勇人
	常務執行役員	井ノ上 大輔
	常務執行役員	伊藤 壽幸
	上席執行役員 兼 最高戦略責任者	渡邊 亘
	上席執行役員	面 了明
	上席執行役員	サム・ヘレバ
	上席執行役員 兼 最高品質責任者	山口 秀則
	上席執行役員 兼 最高情報責任者 兼 最高サプライチェーン責任者	青山 美民
	上席執行役員	バート・デボス
	上席執行役員	西本 裕
	執行役員	儀 尚
	執行役員	寺下 勝
	執行役員	菅野 武男
	執行役員	岸 圭司
	執行役員	杉原 淳

株式の状況

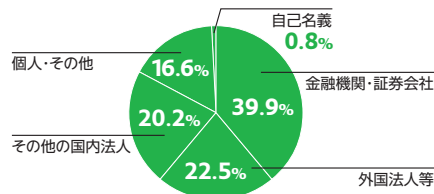
(2018年6月末現在)

発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式の総数	50,855,638株
株主数	10,715人

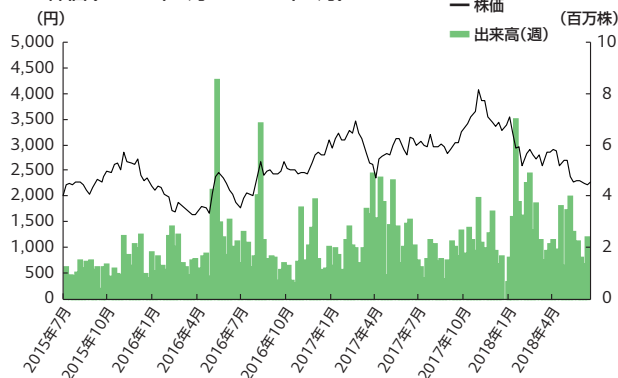
大株主

株主名	所有株数(千株)	所有比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,832	7.53
鈴木興産株式会社	2,563	5.03
明治安田生命保険相互会社	2,341	4.60
株式会社みずほ銀行	2,076	4.08
タイヨー ハネイ ファンド エルビー	1,911	3.75
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,610	3.16
タイヨー ファンド エルビー	1,485	2.92
株式会社京都銀行	1,442	2.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,372	2.69
ステート ストリート バンク アンド トラスト		
カンパニー 505019	1,324	2.60

所有者別状況(保有株式数比率)



株価(2015年7月～2018年6月)



コミュニケーション

前回のアンケートでは73人の株主さまから貴重なご意見をいただきました。多くの声をお寄せいただき誠にありがとうございました。株主さまからいただいたご意見を一部ご紹介させていただきます。

ご意見

- 新しい中期経営計画の方針が伺え、その成果が楽しみです。事業部ごとの戦略も知りたいと思いました。
- 海外の子会社が増えている中でガバナンスに苦労されていると想像します。

NISSHA

当社では、株主さまをはじめとするステークホルダーのみなさまに当社へのご理解を一層深めて頂くことを目的に「Nissha Report」という年次レポートをWebサイトに掲載しております。このレポートは財務情報だけでなく、社長メッセージをはじめ、当社の成長の歴史やコーポレートガバナンス、CSRなどに加え、事業内容や最新の中期経営計画など、幅広い情報を掲載しております。

事業内容のページでは、事業部門のトップ自らが事業の変遷や課題、今後の戦略などについて説明しております。ぜひご覧ください。

■ Nissha Report (Webサイト)

<http://www.nissha.com/ir/library/nisshareport.html>



主なコンテンツ

NISSHAの軌跡／NISSHAのコア技術／NISSHAの進化／CEOメッセージ／CFOメッセージ／事業内容／コーポレートガバナンス／社外取締役メッセージ／CSR／財務情報



アンケートご協力をお願い

株主さまからいただくアンケートへのご回答は、当社の経営やIR活動に対する貴重なご意見として参考にさせていただいております。今後ともアンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

株主メモ

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1-2-1 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
各種お手続きの お取扱窓口	お取引の証券会社等/ 特別口座管理の場合は、特別口座管理機関のお取扱店
特別口座管理機関 お取扱店	みずほ証券およびみずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行およびみずほ銀行 (みずほ証券では取次のみとなります)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(http://www.nissha.com/)ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います
上場証券取引所	東京

表紙の写真



今回の表紙は、2018年7月に京都本社で開催された「グローバル・コネクティング・ケイバビリティーズ会議」の集合写真です。この会議は、ますますグローバル化が進むNISSHAグループの現状を反映し、NISSHAと海外グループ会社のマネジメントメンバーが一堂に会する会議です。参加メンバーは互いの理解を深めるとともに、グローバルベースで能力を結集することにより新たなシナジーを創出することを目指しています。

この写真は2018年2月に竣工したNISSHAイノベーションセンターKYOTOのロビーで撮影されました。

IR情報に関するお問い合わせ

NISSHA株式会社

コーポレートコミュニケーション部IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3
tel.075-811-8111(大代表)

NISSHAの事業

NISSHAは、4つの事業を展開しています。

■ 産業資材

産業資材は、さまざまな素材の表面に付加価値を与える独自技術を有する事業です。プラスチックの成形と同時に加飾を行うIMDおよびIMLは、グローバル市場で自動車、家電製品、スマートフォンなどに広く採用されています。また、金属光沢と印刷適性を兼ね備えた蒸着紙は、飲料品や食品向けの高機能パッケージ資材としてグローバルベースで業界トップのマーケットシェアを有しています。

■ デバイス

デバイスは、精密で機能性を追求したデバイスを提供する事業です。主力製品であるフィルムタッチセンサーはグローバル市場でスマートフォン、タブレット、携帯ゲーム機、産業用機器、自動車などに幅広く採用されています。このほか、気体の状態を検知するガスセンサーなどを提供しています。

■ メディカルテクノロジー

メディカルテクノロジーは、医療機器やその関連市場において高品質で付加価値の高い製品を提供し、人々の健康で豊かな生活に貢献することを目指す事業です。心疾患分野などの手術器具や医療用電極などを主力製品としており、現在はグローバルベースで大手医療機器メーカー向けの受託生産事業（製品設計～開発～生産の一連の工程を手がける事業）を展開するとともに、病院向けに自社ブランド品を生産・販売しています。

■ 情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、出版印刷、商業印刷、セールスプロモーションなど、さまざまな製品・サービスを提供し、お客さま企業のマーケティング戦略や広告宣伝・販売促進などのコミュニケーション戦略全般をサポートしています。

ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り、すべて連結ベースとなっています。

